



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

ツバル

— 2020年度 地域巡回機能回復等推進事業 —  
(終了時評価 2021年4月)

### 事業概要

国名	ツバル
プロジェクト名	2020年度 FDAPIN VII プロジェクト (地域巡回機能回復等推進事業)
実施期間	2020年9月14日(覚書署名)～2021年3月31日
相手国政府覚書署名省 庁名及び実施機関	覚書署名省庁：漁業貿易省 実施機関：漁業貿易省漁業局

### プロジェクト実施の経緯と背景

ツバル政府は、「2016～2020 国家戦略 TE KAKEEGAMIII」の「天然資源」に関する目標としてツバル天然資源の管理及び持続的利用による社会経済的リターンの最大化を掲げており、水産分野では以下の8項目をその具体的内容としている。

- (1) 漁業収入の増大
- (2) 離島漁業者の現金収入増大を含む、組織化、  
管理開発
- (3) 外国漁船の船員育成
- (4) 漁船オペレーター
- (5) WCPFC 規則の遵守
- (6) EU 漁業規則の遵守
- (7) 漁獲物衛生基準
- (8) 沿岸漁業保護

このような戦略の下、同国政府は、各種の漁業振興施策を実施しているが、漁業局が所管する船舶や製氷施設、地域漁業センター等の



水産関連施設は、老朽化に伴う故障や運営管理の不備により本来の機能を発揮することができず、漁業の開発・振興に支障を来している。

このため、ツバル政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に対し、水産関連施設等の修理・修復及び技術移転並びに漁業者組織への指導・助言についての支援要請を行った。

財団は、我が国とツバルとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国漁業貿易省の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

### 目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。 水産関連施設の管理・運営が改善され、活性化・自立化が促進される。
成果	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響による渡航規制により専門家を派遣することができなかったことから、マニュアル等の教材を作成・送付し、電話やメール等のツールを併用して遠隔指導を実施した。</p> <p>① 漁業局ワークショップの整備及び技術指導 当該施設の維持・管理に不可欠なピックアップトラックの換装が完了した。カウンターパートは、車両の定期メンテナンスと適切な利用について指導を受け、これらを実践できるようになったことから、当該施設の維持・管理に係る技術が向上した。</p> <p>② 多目的船マナウイ号の修理・修復及び技術指導 上架を伴う船体整備・修理作業について、カウンターパートは専門家の遠隔指導に沿って作業を行って船体整備及び修理を完了した。この結果、カウンターパートの当該船舶の維持・管理に係る技術が向上した。</p> <p>③ 沖合漁業活性化及び漁獲物の付加価値向上に係る助言 カウンターパートは、専門家が作成した動画を参考に、中層ひき縄漁具の作成及びナマリ節製造方法に関する知識・技術を習得し、講習会を実施してツバル離島漁業者に普及することができるようになった。</p>
活動	<p>① 漁業局ワークショップの整備及び技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両（ダブルキャビン型ピックアップトラック）の換装</li> <li>・ 車体洗浄の必要性及び定期点検整備要領に関する指導</li> <li>・ 運転記録作成指導</li> </ul> <p>② 多目的船マナウイ号の修理・修復及び技術指導</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流発電機発電体の交換</li> <li>・ 海水サービスポンプの修理</li> <li>・ 上架を伴う船体整備</li> <li>・ 上記に必要な技術的指導</li> </ul> <p>③ 漁獲物の付加価値向上と沖合漁業の活性化に係る訓練及び助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中層ひき縄漁具作成講習会の開催</li> <li>・ なまり節製造加工講習会の開催</li> <li>・ 上記に必要な技術指導</li> </ul>
<p style="text-align: center;">投 入</p>	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 専門家</p> <p>計画</p> <p>第1回巡回指導：チームリーダー 漁業普及専門家 2021年1月中旬～2月中旬（約30日間）</p> <p>第2回巡回指導：チームリーダー 漁船機関・冷凍機器専門家 2021年3月初旬～3月中旬（約10日）</p> <p>実績</p> <p>第1回巡回指導：漁業普及専門家 2020年9月14日～10月30日（47日）</p> <p>第2回巡回指導：漁船機関・冷凍専門家 2020年11月2日～12月28日（56日） 漁業普及専門家 2020年12月1日～2021年1月29日（60日）</p> <p>第3回巡回指導：漁業普及専門家 2021年1月12日～3月31日（79日） 漁船機関・冷凍機器専門家 2021年1月12日～3月31日（79日）</p> <p>延日数</p> <p>計画 80人日 実績 321人日（計画対比：401%）</p> <p>（注：延日数の実績には、本邦での映像資料作成やチーム内でのオンライン打合せ、カウンターパートとの連絡等に費やされた日数が含まれる。また、専門家2名がツバルを含む延べ4か国を対象とした遠隔での技術指導等を併行して行った期間となっている。）</p> <p>2) 主な資機材</p> <p>交流発電機発電体、電動リール、中層ひき縄漁具作成材料等</p>

	<p>3) 事業費          予算額 17,382 千円          実績額 17,716 千円 (予算対比: 102%)</p> <p><b>相手国側</b></p> <p>1) 主なカウンターパート</p> <p>①漁業局ワークショップの整備及び技術指導          ②多目的船マナウイ号の修理・修復及び技術指導          Foreman of Fisheries Workshop, Department of Fisheries          ③漁獲物の付加価値向上と沖合漁業の活性化に係る訓練及び助言          Fisheries Officer, Department of Fisheries</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等          資機材のツバル国内における輸送費の負担</p>
--	--

## 評価事項

特記事項：新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、専門家を現地へ派遣できず、日本から新たに作成した資料を用いてリモートで技術指導を実施した。このため、技術指導に必要な資料の作成に時間を要し、また、資料には各国共通で使用する部分があるため、作成に要した時間は個々の国に振り分けることが出来ず、技術指導に要した期間は計画を大幅に超過した。このような特殊事情に鑑み、「効率性」のうち、1. 事業費及び実施期間は評価しないこととする。

## ◆ 妥当性

### 1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、ツバルの国家戦略に基づき、漁業局の活動を支援するものであり、妥当と判断される。

### 2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

国家戦略では離島漁業者の現金収入増大及び組織化が提唱されており、水産関連施設の修理・修復及び技術移転並びに漁業者組織への指導・助言を要請された。事前調査において漁業局製氷機及び多目的船の整備並びに技術指導、漁業局職員と現地漁業者に対する漁具作成作成と魚燻製加工の訓練及び助言に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

### 3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、船舶の修理修復により発生する廃材等については、ツバルの関連法に従い、指定された場所に廃棄されている。

#### 4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトのうち、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものについては、今回の修理修復対象が車両の換装と多目的船の修理が主であり、周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものではない。また、漁具作成作成方法の訓練及び助言は、リーフ魚の資源減少に配慮して、外洋性の魚種を対象にした漁法の導入を目的とするものであり、資源保護については十分に配慮している。さらに、水産加工についても従来の塩乾干しや伝統的な燻製による加工の代替策となるものであり、水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものでない。

#### 5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

## ◆ 効 率 性

#### 1. 事業費及び実施期間

上記、特記事項の理由により適切に評価することが困難である。

#### 2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材及び専門家は、タイミングよく投入され、プロジェクト活動は遠隔での連絡、指導等により対象年度内にすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

#### 3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、巡回指導及び漁業普及とともに、これまでの技術指導及び事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

#### 4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による渡航制限により、技術指導はメール等を用いて遠隔で対応した。

また、マナウイ号の交流発電機発電体の修理については、フナフチの海況悪化の影響で同船を接岸できない期間があったため作業の開始が遅れたが、同船乗組員全員の協力を得てほぼ計画どおりに完了することができた。

#### 5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で専門家を現地に派遣できなかったことから、効率性に

大きな影響があった。

## ◆ 有効性

### 1. プロジェクト目標の達成度

#### ① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。水産関連施設の管理・運営が改善され、活性化・自立化が促進される。

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの知識及び技術レベルが益々向上したことから、プロジェクトの目標は達成された。

映像資料を作成し、漁業局のカウンターパートに送付して漁具の作成方法、漁法及び洋上で魚獲物の燻製加工方法に関して指導し、カウンターパートらの知識及び技術レベルが向上したことから、プロジェクトの目標は達成された。

#### ② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

### 2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

#### ① 漁業局ワークショップの整備及び技術指導

期待された成果：漁業局ワークショップの整備及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。

ワークショップ整備の一環としてピックアップトラックが換装されたことにより、修理を必要とする船外機、修理工具や資材のワークショップへの運搬、漁業局の各種活動における人員の移動や多目的船マナウイ号の出入港に係る機材運搬等に不可欠な輸送機能が復活した。

カウンターパートは、マニュアルをもとに、電話やメールを用いた遠隔での技術指導を受け、定期的な車体の洗浄、純正部品の利用、予備部品の交換スケジュール、車両の運転記録の必要性を理解し、知識と技術レベルが向上した。

#### ② 多目的船マナウイ号の修理・修復及び技術指導

期待された成果：マナウイ号の整備及び当該船舶の維持・管理に係る技術が向上する。

専門家の技術指導の下、カウンターパートは以下の修理作業を行った。

- ・ 交流発電機（220V/三相/60Hz）の発電体交換及び試運転
- ・ 海水サービスポンプの修理
- ・ 船体を上架しての船底洗浄、研磨及び塗装

これら一連の技術指導を通じ、カウンターパートの技術レベルの向上を確認した。

#### ③ 漁獲物の付加価値向上と沖合漁業の活性化に係る訓練及び助言

期待された成果：漁業局職員及び漁業者に対し離島での中層ひき網漁具作成の訓練及び助言を行うことにより、新たな漁法が紹介される。また、漁業局職員及び漁業者に対し離島での

魚燻製品製造の訓練及び助言を行うことにより、水産物の加工技術が向上する。

カウンターパートは、専門家が作成した動画教材の内容を理解し、指導方法を習得した。

ひき縄漁具作成については、映像資料をみれば必要な工具と構成材料がわかるようになっているが、なまり節加工については、原料となるカツオのフィレーを入れる煮熟箱（すのこ）の現地製作が必要であった。そのため、設計図を作成して送付し、詳細はメール等の手段で指導した。

これら一連の技術指導を通じ、カウンターパートは、離島で2種類の講習会を実施できる技術レベルに達していることが確認できた。

## ◆インパクト

### 1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、水産関連施設が修理・修復され、保守・管理に関する技術が向上したほか、新たな漁法が導入され、また、水産加工品の加工技術が高まったことから、プロジェクト目標は達成された。

今後、製氷施設及び多目的船が安定的に機能し、導入された漁法や水産物の加工法が定着すれば、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産性の向上、小規模漁業の発展に一定の効果を及ぼすとともに、漁業局が策定した年間業務計画に掲げる「漁業振興と管理」の達成にも寄与する。

### 2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、施設の維持・管理方法及び漁具の作成や漁法に関する技術の移転がなされた。これにより外洋性魚種の漁獲量が増え、漁業者の所得が向上することから、対象地域の経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。燻製魚作成技術の移転については離島漁業者の首都への輸送手段が様々な制限を受ける中、新たな保存食としての流通が見込まれ、離島漁業者の現金収入増大による経済に対する直接的な効果の発現が見込まれる。

### 3. その他(ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

## ◆持続性

### 1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは漁業局の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は、ワークショップの物資運搬機能を担うピックアップトラック、多目的船

の修理部品、漁具及び水産加工に必要な道具・材料等であり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

## 2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、ツバル政府は外洋性魚種を対象とする漁業技術の重要性を認識しており、漁業局では今後も漁具の数を増やし、引き続き地元漁業者とともに操業を行う方針としている。さらに、同政府はワークショップ等水産関連施設の継続的運用が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識しており、財政支援を積極的に行うこととしている。したがって、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

## 3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上